

平成 18 年度 第 1 回津波災害の軽減方策に関する研究委員会議事録

日 時：平成 18 年 7 月 4 日（火）13:00～16:00

場 所：建築会館 3F308 室

出席者（敬称略）：石川， 運上（代理：杉本）， 小路， 館野， 藤間（代理：嶋原）， 松富

配布資料

資料 1-1 「第 4 回津波災害の軽減方策に関する研究委員会議事録（案）」

資料 1-2-1 「平成 17 年度研究活動及び予算報告」

資料 1-2-2 「平成 18 年度研究計画及び予算案」

資料 1-3 「北スマトラ調査資料」

議事内容：

議題 1. 平成 17 年度第 4 回委員会議事録（案）について（資料 1-1）

議事録（案）が承認された。

議題 2. 諸報告

・平成 17 年度第 2 回日本地震工学会研究統括委員会（資料 1-2-1）

標記委員会において、「平成 17 年度研究活動及び予算報告」と「平成 18 年度研究計画及び予算案」を松富委員長が報告した。

議題 3. 話題提供

■館野公一氏 日本建築センター 建築技術研究所

「日本建築センター（BCJ）における津波避難ビルの技術的検討内容について」
概要）

1. BCJ の調査研究の経緯

2. 2004 年度の BCJ の検討内容

- ・ 既往文献から建築物の設計用津波荷重を提案（建築センター自主研究）
- ・ 津波に対する建築物の構造設計法のまとめ（建築センター自主研究）
- ・ 津波避難ビルの基礎的要件の整理（国交省からの調査研究受託業務）

3. 設計用津波荷重式の妥当性について

中埜ら（東大生研）はスリランカ及びタイでの被災した構造物のデータを収集し、被害事例から浸水深と津波波力の関係を推定した。提案している設計用津波荷重は中埜らが推定した津波波力よりやや大きめではあるものの、設計用波力として妥当なものと考えている。

4. 2005 年度の BCJ の検討内容

- ・津波避難ビルの技術的検討調査（国交省からの調査研究受託業務）・・・津波避難ビルの具体的な試設計例を作成する。設計上の問題点等を抽出し、整理する
- ・構造計画的問題点・・・開口部がある場合の津波設計用荷重の設定
- ・避難計画的問題点・・・津波避難ビル内の避難所要時間
- ・津波避難ビルに指定する場合の目安を作成（津波避難ビル指定促進のパンフレット）

質疑応答での意見

- ・漂流物の取り扱い
- ・津波によって避難ビルに働く浮力の評価方法を是非検討してほしい。
- ・設計用津波波力式の検証について、中柱らの現地調査で得られた建物前面・後面での浸水高の区別は正しいか？
- ・津波がビルに作用する場合でのガラス窓の取り扱い・・・浸水高相当での高さの階の窓は全て割れる。カオラックでの現地調査でも確認。

議題4. 平成18年度の活動計画（資料1-2-2）

- ・本年度内に報告書の目次を作成する。
- ・年次大会は開催されず、研究討論会はできない。
- ・土木学会の津波委員会との Joint 研究討論会は相手方の受け入れ準備が整わない可能性があり、難しそうである。
- ・北東北3大学（弘前、秋田、岩手）と本委員会による講演会等の共催。

議題5. 北スマトラ調査について（資料1-3）

7月28日～8月6日の地震・橋梁・津波分野によるスマトラ島北部での合同調査における調査項目について議論。

- ・小山周りの津波痕跡を調べる
- ・ライフライン・橋梁などがどのように被災してどう復旧したか？
- ・被災した家屋を探す・・・残っている家屋から流速を推定

議題6. その他

- ・次回講演者：橋梁・地盤（液状化）の専門家、北スマトラ調査報告を予定。
- ・次回委員会は10月ごろ行う。

文責：松富